

有害鳥獣に強い町づくり対策事業 あさひまち発、地域住民による野生鳥獣との共生・共存・自主防衛を考える。

富山県朝日町

概要

朝日町における約30kmの山沿いの地域は、過去数年間に一度、野生グマ等による人身事故が発生しており、出没件数も多い年で、100件以上あった。また、サルやイノシシなどの農作物被害も増加傾向にあり、町民生活が脅かされている状況であった。このことから本事業を活用し、住民自ら約10kmの電気柵を設置、既存延長と併せて約28kmを設置した。さらに、山沿いの全区域で有害鳥獣の通り道や隠れ家を無くすため、緩衝帯の整備を行った。

事業の内容

有害鳥獣被害対策に対し、地域住民自らが自立、自主防衛意識の高揚と共生・共存を図る。

総事業費

- ～視察などの勉強会、教本などの作成～
(現状把握・知識向上学習)
- ～ホームページの作成、イノシシの行動域調査～
(住民意識変化・改革)
- ～電気柵の設置及び緩衝帯の整備～
(技術向上、実践)

合計

事業費	2. 1百万円
	1. 3百万円
	6. 7百万円
合計	10. 1百万円

関連する有害鳥獣対策事業

事業の趣旨：
有害鳥獣対策事業

事業内容：各地区有害鳥獣対策協議会にて、各地区の地形、出没状況に応じた対策を模索し、生息環境管理・被害防除・個体数調整を上手く組み合わせながら地域住民を中心に被害対策を行う。
(事業費：4. 4百万円)

視察時写真



電気柵設置時写真

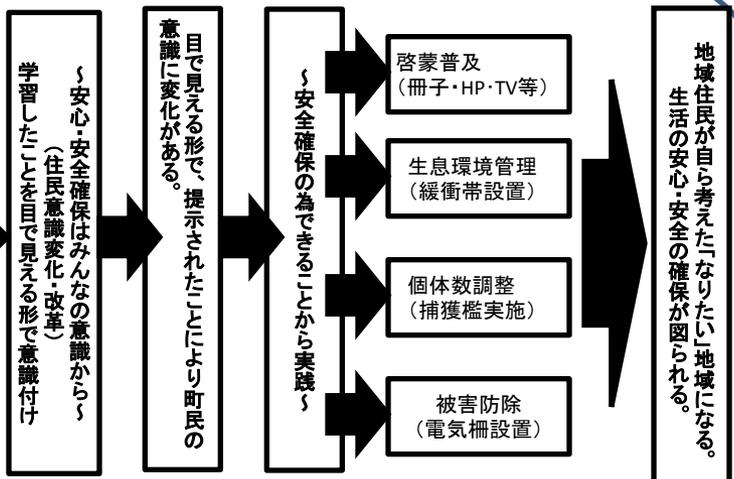
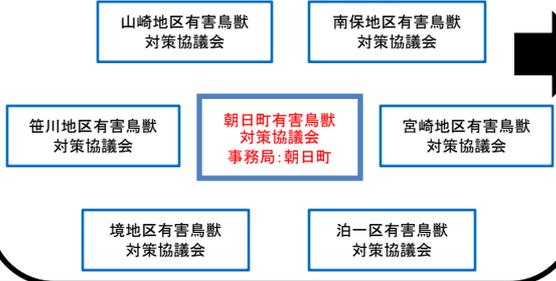


緩衝帯整備



事業の成果

「朝日町有害鳥獣対策協議会」を核とし、各地区協議会が連携し、町民総ぐるみによる対策実施を推進～町民みんなで現状を勉強～



ポイント

本事業実施の結果、地域住民が自ら電気柵設置に携わることや教本などの教材を活用することにより、野生鳥獣との共生・共存・自主防衛(生活の安心・安全確保対策)を自ら考え、自主防衛意識を高め、実行できる体制を構築できるまでとなった。